昭和大学江東豊洲病院だより

２０２２年5月号　　第９７号

巻頭言

救急診療科　　准教授 / 佐々木（ささき）　純（じゅん）

2022 年 4 月より、救急センター（ER）救急診療科の診療科長を拝命しました佐々木純と申します。

私は今まで、昭和大学卒業後に外科から救急に携わり、昭和大学藤が丘病院と昭和大学病院で救命救急センター、ER、総合診療科などで診療してきました。なかでも、腹部救急診療や外傷、災害医療などを中心に行ってきました。また心肺蘇生、外傷診療などの教育や救急救命士への教育などの活動もしております。今回江東豊洲病院に赴任となり、今まで救急センターを率いていただいた弘重壽一先生の後を引き継ぎ、運営を行って参ります。

救急診療科は救急センターでの診療を行っていきますが、当科だけでは人数が少ないため、各専門診療科より選出された医師とともに、24 時間体制での内科系、外科系の疾患全般での診療を交代制で行っていきます。当診療科は、救急隊からの依頼と時間外に来院された患者さんを対象としています。

当院での特徴である、消化器センター、循環器センター、脳血管センター、こどもセンター、周産期センターや各専門診療科と連携しながら救急患者さんの診察を行っており、また昭和大学病院や他の医療機関と連携をとっていくことも重要と考えています。

現在は一昨年から続くコロナ禍であり、発熱、呼吸器症状のある患者さんは、感染の有無が確認できるまで、隔離しながら診療しています。感染対策、安全対策を徹底し、少しでも多くの救急患者を受け入れできるように努め、地域に貢献できるようにしていきたいと思います。
まだ不慣れな点が多く至らぬ点も多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

第 97 号のトピックス

- 巻頭言（救急診療科）
- 看護部長就任のご挨拶
- 多くの人に知ってほしい
  ダウン症児の身体のこと！
- ご意見ご要望
- 編集後記

Report

看護部長就任のご挨拶

看護部長 ／小笠原（おがさわら） 京子（きょうこ）

2022 年 4 月より、前任の立川 京子看護部長の後任として、看護部長に就任いたすことになりました、小笠原 京子と申します。私にとっては身に余る重責ではございますが、これまでの経験を生かし、精一杯の努力をしてまいる所存でございます。前任者同様にご指導ご鞭撻を賜りますよう、何とぞお願い申し上げます。

私は、2013 年 4 月に「江東豊洲病院開設準備室」に配属となり、この病院の創設準備から今日まで携わってまいりました。水辺と緑が豊かで、伝統と歴史を重んじ、昔ながらの下町の風情が色濃く残るここ江東区は、不安で一杯だった私たち開設準備室のメンバーを温かく迎え入れて下さいました。今日まで、病院組織として成長する姿、中で働く職員一人一人が成長する姿を温かく見守り・支えてくださった地域住民の皆様、医療機関の皆様には、日頃より感謝の気持ちで一杯です。

昭和大学江東豊洲病院の理念は「まごころの医療」です。「まごころ」とは、いつわりのない真実の心、人に尽くそうという純粋な気持ちのことであり、誰もが持つ人間本来の心です。私たち看護部組織のあるべき姿は、「まごころを込めた看護」でなければなりません。私の考える「まごころを込めた看護」とは、「患者さん一人ひとりの痛みや苦しみに、心からこたえられる看護」と捉えています。

近年、医療技術の進歩により、多くのテクノロジーが活用されるよう変化してきています。しかし、看護の本質である、病む人に寄り添い、語り合い、心身を癒すという側面は、私たち看護職の「まごころ」をもってしかできない、ケアだと信じています。「まごころを込めた看護」を具現化するためには、まずは、対象の気持ちを考えること、そして、対象の想いを受け止めて私たち看護職に何ができるのか考える過程を大事にすることだと思います。ここ 2 年間は新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、病院の利用者様には多くのご不便をおかけしました。そのような中で、面会できない患者さんの想いや、病気に対する不安を受け止め、何ができるか真剣に考える看護職員たちを見てまいりました。少しずつですが、「まごころを込めた看護」が根付いてきていると確信しています。

これから先も目には見えない看護職員の「まごころ」を感じ取っていただけるような組織へと導いてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Pick up

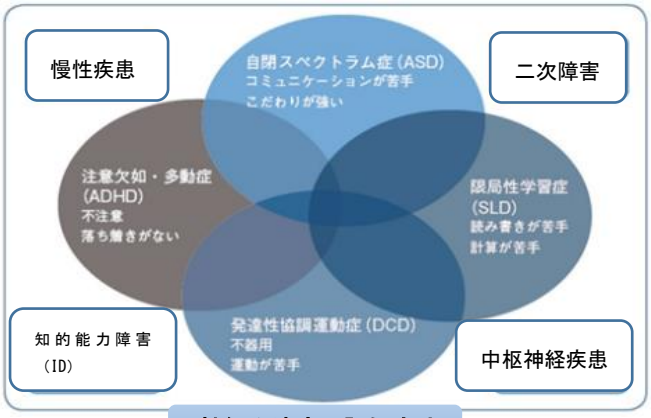
多くの人に知ってほしい　ダウン症児の身体のこと！

リハビリテーション科　／准教授　真野（まの） 英寿（ひでとし）

ダウン症候群は 21 番目の染色体を一本多く持っています。ダウン症児の出産のリスクは女性の加齢とともに増加します。新型出生前診断はご存じでしょう。超高速シーケンサーの開発によって、母親の血液を検査することで、胎児の遺伝子情報がわかる時代になりました（父親の DNA は、胎児を通じて母親の中に入っています。）ではダウン症児は減っているでしょうか？　現実的には減少していないようです。2019 年の国立成育医療研究センターの報告では 2,200 人前後で横ばいであると推定されています。

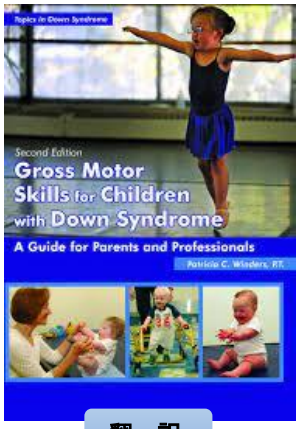
ダウン症児の身体の特徴は、やわらかいことです。乳児期はフロッピーインファントと呼ばれます。筋肉の張りが弱いからです。これを低緊張といいます。低緊張はいつまでも残るのではないか？と思ってしまうかもしれません。医療従事者でもそう感じるようです。**ダウン症児の低緊張は７歳ころには回復し、他の子どもと変わらなくなります！**ちなみに、緊張と筋力は違います。緊張（トーヌス）とは、交感神経の持続的緊張を意味します。「緊張は持続力、筋力は瞬発力」です。「低緊張の回復に合わせて姿勢と動作を教える」ことが、ダウン症児のリハビリの考え方です。

アメリカにはダウン症児のリハビリのプログラムがあります。リハビリの目標は、「一生涯歩くことができる身体能力を身につける」ことです。医療保険制度が違う我が国では、ダウン症児に積極的なリハビリを行うことがあまりないのが現実です。「歩ければリハビリは卒業」になることもあります。日本では、ダウン症児は障がい児だと見なされるからです。マンツーマンのリハビリを受ける事ができれば良いのですが、現時点では、マンパワーも十分ではありません。ダウン症児に関わるみんなで、工夫して子どもの身体能力を伸ばしていくことが必要です。私のまとめた本が参考になると思います。知的発達に関しては、神経発達症の評価が必要になると考えています。社会参加を目標にして評価し、リハビリを行うことが望まれます。



神経発達症の評価方法

原　著



翻　訳

ダウン症児には多くの科が関わっています。小児科のきめ細かい診察がダウン症児の生活を支えています。先天性心疾患の手術が進歩し、多くのお子さんが幼児期に根治術を受けています。ダウン症児は疲れ易く運動が苦手に感じたのは、心臓の手術を受けていなかったからです。小児外科、耳鼻科、眼科、整形外科、形成外科、産婦人科…多くの科のスタッフに支えられています。リハビリテーション科は障がい児の補装具治療を行っています。

平成 30 年に「ダウン症友の会」で講演をした後に、あるお母さんから言われました。合併症のため、いろいろな科にお世話になっているそうです。「先生方にはすごく感謝しています。でも、ダウン症児に対する医療関係者のイメージをなんとかしてくれませんか？」　悲しそうにおっしゃっていました。ようやく約束が果たせるような気がします。

東京 2020 パラリンピック競技大会では、選手として、ボランティアスタッフとして多くのダウン症児が活躍しました。ダウン症児が社会に出て行くためには、ダウン症をもつ子どもたちの体の特徴を、なるべく多くの方に理解してほしいと考えています。

ご意見･ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善策等
院内でのマスク着用を自由にして欲しいです。 	当院では院内感染対策として、入院される患者さん全員を対象に入院前 PCR 検査を実施しております。また、発熱や呼吸器症状があり新型コロナウイルス感染症が疑われる外来患者さんについては、発熱外来にて PCR 検査を受診していただいておりますので、院内での感染の可能性は極めて低いと思われます。 しかしながら初めの検査では陰性となり、後から陽性と判明する患者さんも少なからずおります。そのため院内感染対策としてマスク着用をお願いしております。煩わしい思いをさせてしまいますが、皆様にはご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。 回答部署：クオリティマネジメント課 感染管理室
投薬に関して説明が不足している。退院が見えてから初めて薬剤師よりの説明があったがあまりに遅い。飲んでいる薬の説明は必要ではないか。 	当院は急性期病院であり、日々の入退院患者さんの多さにより十分にお薬の面談を行えない事もありました。本来であれば、入院から開始となったお薬や常用薬の切り替えについては、適切なタイミングでお薬の説明を行う事が望ましいと考えております。 今後、入退院患者さんが多い病棟に対し、より多くの薬剤師を配置することで、随時お薬の説明や面談を実施し、退院に向けて安心して過ごせるようお薬の管理サポートを行うようにいたします。今回の貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の改善に尽くしたいと思います。 回答部署：薬剤部

編集後記

先日雪が降ったと思ったらいきなり桜が満開になって、気がつけば見頃も過ぎつつあるという、時間の経つのが早いのを実感する今日この頃であります。

世の中を見渡せば相変わらずコロナは蔓延し、減少に転じたかと思いきや、再度増加に転じるなど、絶えず緊張を強いられるうえに経済も回復しません。そんな中、さらにロシアのウクライナ侵攻で、世界的な経済の退潮と物価高に打撃が加わり、我々の生活に如実に影響する事態となっていて、先が見通せません。疑心暗鬼になり他者を敵視する風潮や事件の最たるものがウクライナ侵攻であるとも思われます。『冷静になって、社会を守るためには何をしたら良いのか、個々がよく考えて行動するべき』の言葉の重みが実感させられます。度重なる自然災害も含め、何が起きるかわからない世の中ながら、本年度も、より良い社会にするため、小さなことでも我々にできることからしてゆく、という態度で臨みたいと思っております。

呼吸器・アレルギー内科　岡田（おかだ）　壮令（たけのり）

昭和大学江東豊洲病院　http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5－1－38
TEL03－6204－6000(代表)
発行責任者：笠間　毅　　編集責任者：大槻　克文
昭和大学江東豊洲病院 Facebook ページ
Showa University KotoToyosu Hospital